

# くまさんだより

日本基督教団 豊橋東田教会  
〒440-0055 愛知県豊橋市前畑町 112 ☎0532-54-3435  
公式サイト <https://azumada.org/> 武井恵一牧師 080-3428-3200

2020年  
9月号

9月15日発行

イラストは全て池谷陽子さんご提供

## 9月15日 夕礼拝説教

「婦人たち、奉仕する」武井 恵一牧師  
ルカによる福音書7章50節～8章3節 新約聖書117頁

ルカによる福音書7章50節～8章3節

<sup>50</sup>イエスは女に、「あなたの信仰があなたを救った。安心して行きなさい」と言われた。

8

<sup>1</sup>すぐその後、イエスは神の国を宣べ伝え、その福音を告げ知らせながら、町や村を巡って旅を続けられた。十二人も一緒だった。<sup>2</sup>悪霊を追い出して病気をいやしていただいた何人かの婦人たち、すなわち、七つの悪霊を追い出していただいたマグダラの女と呼ばれるマリア、<sup>3</sup>ヘロデの家令クザの妻ヨハナ、それにスサンナ、そのほか多くの婦人たちも一緒であった。彼女たちは、自分の持ち物を出し合って、一行に奉仕していた。

町の人から「罪深いと言われていた女」が、主イエスの足を涙でぬらし、自分の髪の毛でぬぐい、足に接吻して、香油を塗りました。主イエスは、その女に、「あなたの信仰があなたを救った。安心して行きなさい」と言われました。この言葉は、わたしたちにも、主は言われていると、受けとめています。

「罪深い女」を赦し、「あなたの信仰があなたを救った。安心して行きなさい」と、言われた主の言葉にうながされるように、十二弟子は主イエスに従い、福音宣教の旅に出ます。そこに、悪霊を追い出され、病気をいやされた婦人たち、それに多くの婦人たちも同行しました。



主イエスは、男性中心社会において、多くの女性が、男性よりもはるかに早く、主イエスの真実に気が付き、主イエスがかけがえのない大切な存在だとわかり、主イエスの心に従おうとしているのに気がついていました。

男性が、我こそと息込みながら、いざとなると主イエスを遠巻きにして、敬意を払いつつ、一方で権威を持つファリサイ派の姿を見ると、無関心をよそおうのとは、大違いです。



主イエスの宣教の旅に弟子たちと共に同行した多くの婦人たちは、主イエスが、エルサレム神殿を根城にするファリサイ派に無視され、目に見える形で侮辱されていながら、病人や、心を病む人を見ると、やさしく癒される、そのごく自然な「愛」のありかたに、「この方こそ、メシアではないか」と察し、男性より先に信頼から信仰に進み、「どんなことでもこの方のお手伝いしたい」と、主イエスに従う存在になると見られます。

それは、様々なうわさが広がっているにもかかわらず、主イエスが人を選ばず、また、どれほど多人数でも、かならず、誰をも癒される方と、言われていることを、見聞きし、実際に癒していただいたからでした。主イエスの愛と憐れみが、まなざしに、豊かに表れ、人々を救われる実情が各地に広がり始めていたことを示しています。

当時のユダヤ・イスラエルはローマ帝国の支配下にありました。男性たちは、どのようにしたら、より多くの賃金や収入が得られるか、苦慮していたとみられます。もちろん占領下における犯罪や、力による反抗は非常な危険が伴い、とても手が出せないことを当時の人々は知っていました。

あえて注目すれば、駐留しているローマ軍は、ローマ属国から強制的に徴兵した駐屯部隊が大半でしたから、反ローマの怒りを持つユダヤ・イスラエルの熱狂的なユダヤ人は機を見て、反乱を企てようとしていたことです。

また、一方では、ファリサイ派やサドカイ派が、エルサレム神殿の権威を笠にきてユダヤ人同胞を宗教的に差別している状況が背後に大きく存在します。

このようなユダヤ・イスラエルの社会的状況にあって、多くの婦人たちが、主イエスと十二弟子の一行に従ったことは、注目せざるをえないことです。推察できるのはイスラエルの神への堅い信仰をもって、愛を行なおう、と努力し、男性中心の日常を生活している婦人たちの姿です。婦人たちは、「罪深いと言われた女」が、心か

らイエスを主と認め、出来る限りのもてなしをしたのを見て心を打たれました。「罪深いと言われた女」が、罪赦され、主イエスに示した大きな愛が、自らも病気を癒された婦人たちの心を動かし、日常生活を捨て、宣教へと、大きく一步を踏み出させたことと思われま

す。その婦人たちの姿を、聖書は次のように伝えています。

#### ルカによる福音書8章2～3節前半

<sup>2</sup>悪霊を追い出して病気をいやしていただいた何人かの婦人たち、すなわち、七つの悪霊を追い出していただいたマグダラの女と呼ばれるマリア、<sup>3前半</sup>ヘロデの家令クザの妻ヨハナ、それにスサンナ、そのほか多くの婦人たちも一緒であった。

この記事は具体的です。主イエスご自身が宣教の新しい段階に入ったことを記し、十二人の弟子たちが同行するだけでなく、名前を挙げられた有力な婦人たちとそのほか多くの婦人たちが、宣教活動にかかわり始めている状況を、始めて明らかにしています。ごく短い記事ですが、マグダラのマリア、ヨハナ、スサンナと、婦人の名前が記されていることは、注目に値します。

あえて、有力な婦人たちと付言したのは、主イエスの周囲に、これまではその存在が目立たず、ひそかに主イエスの福音を知り、言わば仲間になって主に同行していた婦人たちが、「罪深い女」の信仰と勇氣ある行動などによって、目が開かれ、宣教の旅にでたことが記されているからです。彼女たちは、「罪深い女」と知られている女性にかかわり、自分たちの在り方自体に気付き、主イエスこそ、信ずべき方、と思うに至りました。それは目を追って大きな活動に発展し、主イエスと弟子たち一行の大きな支えになりつつありました。聖書は、具体的に婦人たちの活動を次のように伝えています。

#### ルカによる福音書8章3節後半

<sup>3後半</sup>彼女たちは、自分の持ち物を出し合って、一行に奉仕していた。

このような婦人たちの奉仕は、主イエスと十二弟子を根強く支えていたと思われま。また、後に続く、使徒言行録の宣教の大きな支えとなっていたことでしょう。

先に、ユダヤ、イスラエルは「男性中心社会」と紹介いたしました。歴史的にも根強い社会的伝統である家父長制が基となっていました。

また、忘れてならないのは、イスラエル独自の強い宗教色が、国全体に広がっていた事実です。

エルサレムを中心としたユダヤ教は、周辺諸国とは大きく違う民族宗教国家で、かつてはエジプトの奴隷となりつつ、大国エジプトから脱出を実現し、「イスラエル」を強大な宗教大国にしました。そして、その大きな発展の根底には、「全知全能の神ヤハウエ」信仰が存在し、唯一神を信じる信仰は女性の力により代々受け継がれるところがあったと推察されます。

それは、戦闘や戦争する力とは異なり、圧倒的な潜在的信仰の力が女性にも与えられていたと聖書の歴史は語ります。ユダヤ・イスラエル国家は、表面的にはかたくな「男性中心社会」だったと、見られていますが、その内実は「有力な女性の力」によって維持され、歴史が築かれてきたのではないかと推察されます。そこには、神様を心から信じ、信仰によって決断し、行動したユダヤ・イスラエルの女性の男性にめげない力が働いていたと認識する他ありません。

そこには、神の民としてイスラエル民族に与えられた信仰が根底にあり、その信仰を、最も理解し、日常の働きとしたのが、ユダヤ・イスラエルの女性だったのではないかと考えられます。

この一行とは、主イエスと弟子たちの宣教集団です。この婦人たちは、自分の持ち物を出し合って、とありますから、ある場合にはそれを売って、一行に必要な宿や、食事をも準備したことでしょう。どのような場合でも、必要に応え、主イエスの一行に必要なものを用意したというのは、驚きであります。

これは、父なる神に導かれ聖書に記された歴史の現実です。

「罪深い女」に、主イエスが言われた「あなたの信仰があなたを救った、安心してゆきなさい」という言葉は、弟子たちを前進させました。そして、婦人をも立ち上がらせ、十二弟子とともに主イエスに付き従い、仕える者とさせました。

私たちも、主イエスに罪赦され、信仰を与えられました。「安心してゆきなさい」と、主イエスはわたしたちの背中を押してくださいませ。主イエスに従う者となる恵みにあずかりました。

この恵みを感謝し、わたしたちも、恵みに応え、前進するものとなりましょう。

祈り 讃美歌(21) 91番 「神の恵み」

聖書の言葉はすべて以下から引用しています。

聖書 新共同訳：

(c) 共同訳聖書実行委員会

Executive Committee of The Common Bible Translation

(c) 日本聖書協会

Japan Bible Society, Tokyo 1987, 1988

